

青山学院大学

ジェロントロジー研究所年報

第8卷

2025年度

目次

目次	2
卷頭言	3

平田 普三	4
井上 孝	9
塩澤 友規	11
日置 俊次	13
米山 聡	15
栗原 陽介	18
石井 慶子	20
竹下 啓	22
佐野 智子	25
長田 久雄	27
平井 誠	29
草野 邦明	30
井上 希	32
朝倉 匠子	33
大西 典子	34
及川 麻衣子	36
五十嵐 靖博	38
富田 知子	39
永松 俊哉	40
SAM	41

巻頭言

2025年度の終わりを迎え、日本社会は「2025年問題」と呼ばれてきた局面に本格的に直面しています。団塊の世代がすべて75歳以上となり、医療・介護需要の増大、社会保障費の拡大、労働力人口の減少が同時に進行する状況は、もはや予測ではなく現実です。いま私たちは、超高齢社会をどのように受け止め、次の社会像を描くのかを問われています。重要なのは、超高齢社会を単なる「問題」としてではなく、社会のあり方を更新する契機として捉える視点です。進展するDX（デジタルトランスフォーメーション）やAIは、高齢者を支援の対象にとどめず、社会参加の主体として位置づけ直す可能性を示しています。医療・介護に加え、移動、就労、学習、交流などの分野においても、デジタル技術は年齢による制約を緩和しつつあります。ジェロントロジーは、こうした技術革新を人間の尊厳や生活の質と結びつけて考察する学問として、その役割を一層高めています。また、持続可能な超高齢社会を支えるためには、地域共生の視点が不可欠です。高齢者が住み慣れた地域で役割を持ち続け、世代を超えて支え合う仕組みは、行政や専門職のみで完結するものではありません。地域の特性を踏まえつつ、DXやAIを活用して人と人をつなぐことが、共生社会の具体化につながります。

青山学院大学ジェロントロジー研究所は、設立以来、研究・教育・啓発・広報の四事業を柱に、学際的な研究と社会との対話を重ねてきました。2025年度は、これまでの成果をDXやAI、地域共生と結びつけ、社会実装を意識した取り組みを一層推進してまいりました。ジェロントロジーを専門家だけの学問にとどめず、多くの人が自らの課題として考えるための基盤づくりを目指しています。ここに2025年度のジェロントロジー研究所の活動報告を公開いたします。本報告が、2025年問題のその先を見据え、誰もが年齢を重ねることに希望を見いだせる社会を考える契機となれば幸いです。

2026年3月

所長 平田 普三

平田 普三

所属：青山学院大学理工学部・教授

経歴等：http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_-leader/

研究成果の概要

淡水魚であるゼブラフィッシュをモデル生物として、生物の老化がいかなる分子メカニズムによって進行するのか、また老化そのものが生物にとってどのような意義をもつのかを明らかにする研究を行っている。Werner 型早老症の原因遺伝子である RecQ 型 DNA ヘリカーゼの欠損が、成長期において早期の低栄養状態を引き起こすことを見出し、老化関連疾患の理解に資する新たな知見を提示した。また、ゼブラフィッシュ RW 系統のゲノム解析ならびに、ゼブラフィッシュを用いた化学物質暴露による催奇形性応答の系統間比較を実施した。これらの成果を基に、化学物質の安全性試験ガイドライン ICH S5 (R3) に資する形態異常アトラスを構築し、毒性評価の標準化に貢献をした。基礎研究から応用研究に至るまで、幅広い研究基盤の強化を達成した。

学術論文

1. Ujibe, K., Kashima, M., Kataoka, M., Shimada, R., Okamoto, M., Kobayashi, I., Wada, S., Matsuda, H., Sakamoto, S. and Hirata, H. (2026) Deficiency of Werner RecQ-type DNA helicase causes premature malnutrition in zebrafish. *iScience* 29(3): 114760. [https://www.cell.com/iscience/fulltext/S2589-0042\(26\)00135-5](https://www.cell.com/iscience/fulltext/S2589-0042(26)00135-5)
2. Kadowaki, H., Hatta, T., Sugiyama, K., Fukaya, T., Fujisawa, T., Hamano, T., Murao, N., Takami, Y., Mitoma, S., Natsume, T., Sato, K., Hirata, H., Uechi, T. and Nishitoh, H. (2026) Sec61b maintains cytoplasmic proteostasis via ARIH1-mediated translational repression upon ER stress. *EMBO Rep.* 27: 1057-1091. <https://link.springer.com/article/10.1038/s44319-026-00690-y>
3. Hirata, H., Ishitani, T. and Okamoto, H. (2025) Swimming into future breakthroughs from Kyoto, Japan: Report of the 18th International Zebrafish Conference (IZFC2024). *Genes Cells* 30 (1): e13193. <https://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/gtc.13193>
4. Taya, C., Ujibe, K., Shimodaira, S., Sakamoto, A., Wada, S., Kashima, H. and Hirata, H. (2025) Comparative analysis of teratogen-induced malformations and gene expression across zebrafish strains in early development. *Toxicol. Rep.* 15: 102117. <https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S2214750025002367>
5. Mori, K., Aoki, Y., Hayashi, M., Sugimoto, W., Ono, M., Umekita, S., Niino, T., Ebata,

- T., Mikashima, F., Maki, K., Tanaka, T., Hirata, H. and Kojima, H. (2025) Variation and classification of chemically-induced zebrafish malformations for the ICH S5 (R3) guideline: an atlas for zebrafish teratogenesis. *J. Toxicol. Sci.* 50(8): 431-444.
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jts/50/8/50_431/_article
6. Sadamitsu, K., Kashima, M., Wada, S., Ishioka, A., Nakayama, S., Nakayama, R., Okamoto, H. and Hirata, H. (2025) Establishment and genetic characterization of zebrafish RW line. *Sci. Rep.* 15: 14512.
<https://www.nature.com/articles/s41598-025-98674-w7>.
7. Matsuzawa, R., Kawahara, D., Kashima, M., Hirata, H. and Ozaki, H. (2025) tomoseqr: a Bioconductor package for spatial reconstruction and visualization of 3D gene expression patterns based on RNA tomography. *PLoS One* 20 (1): e0311296.
<https://journals.plos.org/plosone/article?id=10.1371/journal.pone.0311296>

招待講演

8. 平田普三。ゼブラフィッシュを用いた化学物質の安全性評価。基礎生物学研究所ワークショップ「表現型識別 AI を用いたオフターゲットスペクトル解析法の構築」。基礎生物学研究所（岡崎）。2026年3月16日。
9. 平田普三。ゼブラフィッシュを用いた老化研究と毒性研究。鳥取大学医学部特別講義。鳥取大学（米子）。2025年11月20日。
10. 平田普三。超高齢社会とジェロントロジーにおける産業イノベーションとしての美容。日本美容福祉学会第24回学術集会。オンライン。2025年11月15日。
11. 平田普三。ゼブラフィッシュを用いた化合物探索と発生毒性試験。千里ライフサイエンス技術講習会第74回新たな医学・薬学研究を切り拓く小型魚類解析～動物実験の限界を魚で突破！～。千里ライフサイエンスセンタービル（大阪）。2025年6月5日。

学会発表

12. 竹澤涼、和田清二、平田普三。ゼブラフィッシュ変異体の染色解析に基づく異常部位の分類。日本動物学会関東支部第78回大会。埼玉大学全学講義棟（さいたま）。2026年3月14日。（学会ポスター発表）
13. 島崎月彩、和田清二、平田普三。ゼブラフィッシュ成魚への無麻酔経口投与方法の確立。日本動物学会関東支部第78回大会。埼玉大学全学講義棟（さいたま）。2026年3月14日。（学会ポスター発表）
14. 濱野崇、辻河海哉、和田清二、平田普三。運動障害を示すゼブラフィッシュ変異体に見られた運動ニューロンの形成異常。日本動物学会関東支部第78回大会。埼玉

- 大学全学講義棟（さいたま）。2026年3月14日。（学会ポスター発表）
15. Taya, C and Hirata, H. Comparative analysis of teratogen-induced malformations and gene expression across zebrafish strains in early development. The 11th Strategic Conference of Zebrafish Investigators (SCZI2026). Shaw Foundation Alumni House of the National University of Singapore, Singapore. 2026年1月15日。（国際学会ポスター発表）
 16. 和田清二、小柳光正、寺北明久、平田普三。視覚オプシン欠損ゼブラフィッシュの表現型。日本比較生理生化学学会第47回大会。早稲田大学国際会議場（東京）。2025年12月6日。（学会ポスター発表）
 17. 木村丈一、竹澤涼、和田清二、平田普三。itgb1bp2変異ゼブラフィッシュにおける異常なアクチンフィラメント形成。日本比較生理生化学学会第47回大会。早稲田大学国際会議場（東京）。2025年12月6日。（学会ポスター発表）
 18. 濱野崇、辻河海哉、和田清二、平田普三。運動異常を示すゼブラフィッシュ変異体における運動ニューロンの形成異常。日本比較生理生化学学会第47回大会。早稲田大学国際会議場（東京）。2025年12月6日。（学会ポスター発表）
 19. 高見優希、和田清二、小柳光正、寺北明久、平田普三。光依存的に拡大縮小するゼブラフィッシュ仔魚の松果体窓の解析。日本比較生理生化学学会第47回大会。早稲田大学国際会議場（東京）。2025年12月6日。（学会ポスター発表）
 20. 袖山吟、早坂央希、鹿島誠、氏部浩太、神保充、池田大介、平田普三、関田洋一、亀井宏泰、古川史也。発生過程における短時間の低酸素刺激がDNAメチル化酵素とメチル化DNAの増加を引き起こす。第48回日本分子生物学会年会。パシフィコ横浜（横浜）。2025年12月4日。（学会ポスター発表）
 21. 島崎月彩、和田清二、平田普三。ゼブラフィッシュ成魚への無麻酔経口投与法の開発と最適化。第11回ゼブラフィッシュ・メダカ創薬研究会。アクトシティ浜松（浜松）。2025年11月17日。（学会口頭発表）
 22. 北原竜斗、山崎裕之、滝嶋遼、和田清二、鹿島誠、武藤彩、川上浩一、平田普三。ゼブラフィッシュを用いた難治性てんかんモデルの確立。第98回日本生化学会大会。国立京都国際会館（京都）。2025年11月3日。（学会ポスター発表）
 23. 濱野崇、辻河海哉、和田清二、平田普三。運動障害を示すゼブラフィッシュ変異体に見られた運動ニューロンの形成異常。日本動物学会第96回名古屋大会。ポートメッセなごや（名古屋）。2025年9月5日。（学会ポスター発表）
 24. 和田清二、大西沙樹、小林龍人、小柳光正、寺北明久、平田普三。ゼブラフィッシュ仔魚における錐体の光受容依存的な行動の解析。日本動物学会第96回名古屋大会。ポートメッセなごや（名古屋）。2025年9月5日。（学会ポスター発表）
 25. Kashima, M., Nishimura, K., Kashima, H., Ikeshiro, H. Shimodaira, S., Ujibe, K. and

- Hirata, H. Intraspecies differences in sex determination processes between wild-type and inbred zebrafish strains. 第 31 回小型魚類研究会。青山学院大学（東京）。2025 年 9 月 2 日。（学会口頭発表）
26. Shimazaki, L., Wada, S. and Hirata, H. Methods and tips for chemical administration in adult zebrafish without anesthesia. 第 31 回小型魚類研究会。青山学院大学（東京）。2025 年 9 月 1 日。（学会ポスター発表）
27. 平田普三。ゼブラフィッシュを用いた生殖発生毒性評価の代替法開発。2025 年日化協 LRI 研究報告会。東京証券会館（東京）。2025 年 8 月 29 日。（班会議ポスター発表）
28. Hirata, H., Sadamitsu, K., Kashima, M., Wada, S., Ishioka, A., Nakayama, S., Nakayama, R. and Okamoto, H. Establishment and genetic characterization of zebrafish RW line. The 19th International Zebrafish Conference (IZFC2025). Memorial Union, Madison, WI, USA. 2025 年 7 月 12 日。（国際学会ポスター発表）
29. Sodeyama, G., Hayasaka, O., Kashima, M., Ujibe, K., Jimbo, M., Ikeda, D., Hirata, H., Sekita, Y., Kamei, H. and Furukawa, F. Effects of hypoxia on Dnmts and DNA methylation during development of zebrafish. The 19th International Congress of Comparative Endocrinology (ICCE19). 仙台国際センター（仙台）。2025 年 7 月 10 日。（学会ポスター発表）
30. 森華奈子、足利太可雄、小野美都穂、江畑知憲、杉本航、田中利男、平田普三、小島肇。ゼブラフィッシュを用いた発生毒性試験代替法の現状および動向。第 52 回日本毒性学会学術年会。沖縄コンベンションセンター（那覇）。2025 年 7 月 3 日。（学会口頭発表）

受賞

31. 平田普三。2025 年度日本毒性学会田邊賞。2025 年 7 月。

指導学生受賞

32. 下平真之介。2025 年度青山学院大学学業成績優秀者表彰。2025 年 4 月。
33. 下平真之介。2025 年度青山学院大学工学部薦田先端学術賞。2026 年 3 月。
34. 下平真之介。2025 年度青山俳壇(第 4 回)優秀賞。2025 年 12 月。
35. 秋山知優。2025 年度青山俳壇(第 4 回)優秀賞。2025 年 12 月。
36. 田谷千歳。2025 年度青山俳壇(第 4 回)優秀賞。2025 年 12 月。

社会活動・委員活動

37. 平田普三。国際ゼブラフィッシュ学会 (IZFS) 理事。2025年7月～。

38. 平田普三。ゼブラフィッシュ・メダカ創薬研究会理事。2021年1月～。
39. 平田普三。Genes, Editorial Board. 2020年9月～。
40. 平田普三。Frontiers in Molecular Neuroscience, Associate Editor. 2020年7月～。
41. 平田普三。Scientific Reports, Editorial Board. 2019年7月～。
42. 平田普三。日本生化学会評議員。2018年9月～。
43. 平田普三。文部科学省ナショナルバイオリソースプロジェクト(ゼブラフィッシュ)運営委員長。2017年4月～。
44. 平田普三。Journal of Biological Chemistry (JBC), Editorial Board Member. 2016年7月～。
45. 平田普三。公私立大学実験動物施設協議会代議員。2016年4月～。
46. 平田普三。文部科学省ナショナルバイオリソースプロジェクト(ゼブラフィッシュ)運営委員。2010年9月～。
47. 平田普三。第31回小型魚類研究会大会長。2025年1月～2025年12月。

アウトリーチ

48. 平田普三。理工学部60周年記念事業Meet up in AGU研究室公開。2026年2月23日。
49. 平田普三。オープンキャンパス/Girls Meet STEM 研究室公開。2025年7月13日。

メディア出演

50. 平田普三。ヨビノリたくみYouTube動画「人類の次のステップへ：研究者の夢が壮大すぎた」出演。2026年1月9日
<https://www.youtube.com/watch?v=htNCs0cjbbM>
51. 平田普三。読売中高生新聞。進め！理系女子。2025年7月4日
52. 平田普三。第74回千里ライフサイエンス技術講習会「新たな医学・薬学研究を切り拓く小型魚類解析～動物実験の限界を魚で突破！」2025年10月1日：千里ライフサイエンス財団ニュース No. 106, 2025年10月号。
https://www.senri-life.or.jp/wp/wp-content/uploads/2025/10/LF106_hp.pdf

井上 孝

所属：青山学院大学経済学部・学部長（教授）

経歴等：http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_1/

研究成果の概要

今年度の最大の研究成果は、全国小地域別将来人口推計システム The Web Mapping System of Small Area Population Projections for the Whole of Japan (SAPP for Japan) を全面的に更新し公開する目処がたったことである。このシステムは、これまで 2010 年と 2015 年の国勢調査小地域人口データに基づいて 2020～65 年の男女 5 歳階級別人口を推計し、その結果を公開していた。これに対して、更新後のシステムは、2015～2020 年の国勢調査小地域人口データに基づいて 2025～2070 年の男女 5 歳階級別人口を推計し、その結果を公開する形となる。この更新に伴って、システムのインターフェイスも大幅に改良し、また、新たに簡易的な分析ツールも導入予定である。

なお、同様のシステムは、日本以外に米国、米国ワシントン州、台湾、韓国、オーストラリアについても構築・公開しており、それらを総称して SAPP シリーズと呼んでいる。SAPP シリーズについては、昨年度末にハブサイトも公開しており、このサイトから各システムに簡単にアクセスできる環境が整えられた。

学術論文・著書・分担執筆・ウェブサイト

1. Inoue, T., 2025, The Progress of Population Aging in the Tokyo Metropolitan Area in the First Half of the 21st Century. pp. 16-41, Matsumoto S. ed., Energy Consumption and Aging Population: Experiences from Japan and Spain, Routledge, 205p.
2. 井上 孝, 2025, 全国小地域別将来人口推計システムとその SAPP シリーズへの展開. 『ESTRELA』, 第 380 号.
3. 井上 孝, 「全国小地域別将来人口推計システム」日本語版 (<http://arcg.is/1LqC6qN>) Ver.3.0 公開中
4. Inoue, T., The Web System of Small Area Population Projections for the Whole Japan (<http://arcg.is/1GkdZTX>) Ver.3.0 公開中
5. Inoue, T., The Web Mapping System of Small Area Population Projections for the State of Washington (<http://arcg.is/2s5i2Vk>) Ver.1.0 公開中
6. Inoue, T., The Web Mapping System of Small Area Population Projections for Taiwan (<http://arcg.is/1rCPmm>) Ver.1.0 公開中
7. Inoue, T., The Web Mapping System of Small Area Population Projections for the

- US. (<https://onl.la/HfU9yPZ>) Ver.1.0 公開中
8. Inoue, T., The Web Mapping System of Small Area Population Projections for South Korea. (<https://arcg.is/1Hfz1n>) Ver.1.0 公開中
 9. Inoue, T., SAPP series hub site: The Series of “The Web Mapping Systems of Small Area Population Projections” (SAPP series). (<https://arcg.is/0GmrfO>) 2025 年 2 月 28 日公開
 10. Inoue, T., The Web Mapping System of Small Area Population Projections for Australia. (<https://arcg.is/D9bT00>) 2025 年 3 月 31 日公開

シンポジウム・講演等

11. 井上 孝, 2025, 日本における将来の高齢化過程－小地域別将来推計人口を用いたクラスター分析－. 人口学研究会第 668 回例会.
12. 井上 孝, 2025, 地域人口論の新潮流－小地域人口統計の整備と GIS の発展を契機として－. 日本人口学会第 77 回大会, 福岡大学. 【会長講演】
13. Inoue, T., 2025, How Will the Aging and Shrinking of Japan’s Population Progress?: Spatial Analyses Using Small Area Population Projection Data. The 30th International Population Conference, Brisbane, Australia.
14. Inoue, T., 2025, The Progress of Aging in Japan from 2015 to 2065: An Explanation Using Data from the SAPP Series. 2025 International Conference of the Population Association of Korea, Seoul, Korea. 【招待講演】
15. Inoue, T., 2025, The Progress of Aging in Japan from 2015 to 2065: An Explanation Using Data from the SAPP Series. 2025 Seoul Cyber University International Conference, Seoul, Korea. 【招待講演】
16. 井上 孝, 2025, オーストラリア版小地域将来人口推計システムの公開について. 2025 年度日本人口学会第 1 回東日本地域部会, 宮城大学.
17. 井上 孝, 2025, オープンデータベースとしての小地域将来人口推計ウェブマッピングシステムの展開. 地理情報システム学会第 34 回学術研究発表大会, 富山大学.
18. 井上 孝, 2025, 日本の高齢化は今後どのように進行するのか－小地域別将来推計人口による分析－. 青山学院大学 Re: Search Forum. 【招待発表】

社会活動・委員活動

19. 日本人口学会会長
20. 人口学研究会副会長
21. 国立・社会保障人口問題研究所編集委員会委員
22. 第 9 回「地方行政のための GIS チュートリアルセミナー」組織者

メディア出演等

23. 2025年6月9日付け信濃毎日新聞デジタル記事「20年で人口半減の旧村も 合併で見えづらくなった地域の人口減 長野県内の増減率, 旧市町村単位で比較」にて全国小地域別将来人口推計システムが紹介される
24. 2025年6月11日付けFinancial Times ウェブ記事「Japan urged to use gloomier population forecasts after plunge in birth」にて解説
25. 2026年1月4日付けNewsweek ウェブ記事「How birth rates could transform Japan by 2050」にて解説
26. 2026年1月21日付け日本経済新聞電子版記事「北九州, 2年連続転入超過「潮目」が変化」 新興支援や体験で呼び込む」にて解説
27. 2026年1月22日付け日本経済新聞九州版記事「潮目の変化「確かに」 北九州市, 2年連続転入超過」にて解説

塩澤 友規

所属：青山学院大学経営学部・教授

経歴等：<https://raweb1.jm.aoyama.ac.jp/aguhp/KgApp?resId=S001078>

研究成果の概要

ライフワークである自律神経と健康に関する著書執筆、編集に従事した。また、青山学院大学保健管理センター関連の研究として、大学生の妊孕性に関する知識、大学生のヘルスリテラシー、等に関する調査・研究を行った。この他、高齢者医療制度等を含む社会医学系に関する第119回ならびに第120回の医師国家試験問題に関する解説書を執筆した。さらに、下記各種学会役員を担当した。また、産業労働衛生に関する教職員並びに学生を対象とする教育活動を行なった。学外学術委員活動として、日本脳神経超音波と栓子検出学会の立ち上げと、同学会理事として、第1回全国総会の開催に参画した。形の科学会事務局長として、第98回、99回シンポジウムを支援し、来年度の記念すべき第100回シンポジウムの礎固めに尽力した。

学術論文・著書・分担執筆

1. 塩澤友規 他. In: 医師国家試験問題解説書編集委員会 編. 国試120－第120回医師国家試験問題解説書. 東京: M3; in press.
2. 大里貴子, 稲垣中, 松本さゆり, 松本由佳, 数野香苗, 菅原宏美, 大葉美穂, 丸山由衣, 中村沙矢香, 塩澤友規, 他. 大学生のヘルスリテラシーに関する調査. CAMPUS HEALTH 64, in press.
3. Takada H, Shiozawa T, Kanikowska D (Ed). Autonomic Nervous System and Health. In press, Springer, Singapore.
4. Takada H, Shiozawa T and Kanikowska D. Why the Autonomic Nervous System Matters. Takada H, Shiozawa T, Kanikowska D (Ed). Autonomic Nervous System and Health. In press, Springer, Singapore.
5. 塩澤友規 他. In: 医師国家試験問題解説書編集委員会 編. 国試119－第119回医師国家試験問題解説書. 東京: M3; 2025.
6. 数野香苗, 稲垣中, 松本さゆり, 大里貴子, 菅原宏美, 大場美保, 丸山由衣, 塩澤友規, 他. 大学生の妊孕性に関する知識についての調査. CAMPUS HEALTH 63, 61-62, 2025.

学会発表

7. 大里貴子, 稲垣中, 松本さゆり, 松本由佳, 数野香苗, 菅原宏美, 大場美穂, 丸山

由衣、中村沙矢香、塩澤友規、他. 大学生のヘルスリテラシーに関する調査. 第63回全国大学保健管理研究集会（郡山）, 2025.9.10.

社会活動・委員活動

8. 横断型基幹科学技術研究団体連合（横幹連合） 代議員
9. 日本脳神経超音波と栓子検出学会理事・評議員
10. 形の科学会運営委員（理事・事務局長）
11. 日本時間生物学会評議員
12. 日本宇宙航空環境医学会評議員
13. 第1回日本脳神経超音波と栓子検出学会総会一般口演座長
14. 日本認知症学会認定認知症専門医・指導医
15. 日本神経学会認定神経内科専門医・指導医
16. 日本内科学会認定内科医・認定総合内科専門医
17. 日本公衆衛生学会認定公衆衛生専門家
18. 社会医学系専門医協会認定社会医学系専門医・指導医

日置 俊次

所属：青山学院大学文学部・教授

経歴等：http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_2/

研究成果の概要

横光利一、岸田國土の関係を研究している。関連の雑誌論文を4本、書籍を1冊、それぞれ発表した。書籍は電子書籍である。編集、デザイン等も自分で行っている。また、短歌結社誌「かりん」の編集委員として、毎月、詠草選歌・賞審査・校正など歌誌発行業務を行う。高齢者の方々と協力して、誌面作りの仕事をしている。短歌創作と発表が高齢者の生き生きした生活に深く関与していることを日々観察している。青山善光寺等で定例歌会を開き、高齢者の作品を読み、100歳を超える高齢者とも対話している。なお短歌は若者の文芸でもある。学生にも短歌の指導をし、学外短歌コンクールに応募させ、長年にわたり受賞者を輩出している。

論文（すべて単著）

1. 「岸田國土と横光利一——「チロルの秋」から「旅愁」の世界へ——」「国語と国文学」2025年10月
2. 「異郷のプリズム——横光利一と岸田國土、フランス文化の創造的受容——」「青山スタンダード論集」2026年1月
3. 「岸田國土と横光利一における言語空間の創造——「牛山ホテル」から「旅愁」につながる架空地理学——」「青山語文」2026年3月
4. 「横光利一「旅愁」におけるアンリエット像の源流——バルザック・モーパッサン・岸田國土——」「青山学院大学文学部紀要」2026年3月

書籍

5. 『横光利一と岸田國土』日置研究室、2026年5月、電子版

創作（短歌連作）

6. 「一周忌」 かりん 2025年4月号
7. 「蠅」 かりん 2025年5月号
8. 「桜とルメ」 かりん 2025年6月号
9. 「ジョセフ・コーネルの箱」 かりん 2025年7月号
10. 「うろくづわれも」 かりん 2025年8月号
11. 「急急如律令」 かりん 2025年9月号

- | | |
|----------------------|------------------|
| 12. 「紫陽花」 | かりん 2025 年 10 月号 |
| 13. 「ママン」 | かりん 2025 年 11 月号 |
| 14. 「郵便配達の声」 | かりん 2025 年 12 月号 |
| 15. 「たましひの時間」 | かりん 2026 年 1 月号 |
| 16. 「サン＝テグジュペリの翼」 | かりん 2026 年 2 月号 |
| 17. 「パリ一六五四年一一月二三日夜」 | かりん 2026 年 3 月号 |
| 18. 「米の名前」 | 「短歌研究」5・6 月合併号 |

社会活動・委員活動

19. 短歌結社「かりん」 編集委員・選歌委員
20. 表参道歌会 講師
21. かぐや会歌会 講師

米山 聡

所属：青山学院大学理工学部・教授

経歴等：http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_6/

研究成果の概要

水平に設置された状態で測定されたシリコンウエハの片面のみの自重たわみと反りを含む表面形状から反りおよび残留応力を推定する方法を提案した。この方法では、多数の表面形状測定結果を蓄積し、自重たわみを推定して反りを求める。さらに、得られた反りから、重ね合わせ原理に基づいて残留応力を同定する。本研究では残留応力分布の物理的妥当性に基づく新たな正則化手法を提案した。これらにより推定法により、片面のみの形状測定から反りおよび残留応力を推定することが可能となり、両面測定が不要となる。さらに、データ駆動型手法を用いて、くびれ後を含む弾塑性材料やゴムなど非線形弾性材料の応力-ひずみ関係を同定する方法を開発した。そのために有限変形論に基づいた定式化を行い、さらに複数の荷重に対する測定値を入力として応力-ひずみ関係を距離最小化関数とつり合い式を用いて同定する。この方法により、構成則に依存性図に非線形な応力-ひずみ関係の同定が可能である。

学術論文・著書・分担執筆

1. Fukuda, C., Iizuka, K., Sakaue, K. and Yoneyama, S., Crack Identification and Strain Evaluation from Displacement Fields Measured Using Digital Image Correlation, *Advanced Experimental Mechanics*, 10, 33–39 (2025).
2. Sun, D., Taguchi, S., Niki, I., Iizuka, K. and Yoneyama, S., The Virtual Fields Method for Identifying Viscoelastic Properties Based on Stress Sensitivity Virtual Fields, *Mechanics of Time-dependent Materials*, 29(2), #43 (2025).
3. Tsujii, Y., Iketa, N., Iizuka, K. and Yoneyama, S., A Method for Measuring Displacements and Strains near Interface of Dissimilar Materials by Finite Element Global Digital Image Correlation, *Materials System*, 42, 21–26 (2025).
4. Nakachi, A., Yokoyama, S., Iizuka, K. and Yoneyama, S., A DIC-FEM Hybrid Method for Measuring Strains near Fiber-Matrix Interface of CFRP Cross Section, *Optics and Lasers in Engineering*, 184, 108682 (2025).

シンポジウム・講演・学会発表

5. Horio, K., Iizuka, K. and Yoneyama, S., Carbon Fiber Network Strain Sensor Utilizing Localized Conductivity by Laser Processing, *International Workshop on Advanced*

- Experimental Mechanics for Students and Young Researchers 2025 (IWAEM'25), #O015 (Higashi Osaka, November 29-30, 2025).
6. Ohno, A., Iizuka, K., Yoneyama, S. and Todoroki, A., A Study of Reconstruction Filters in Back Projection for Improving DVC Accuracy, International Workshop on Advanced Experimental Mechanics for Students and Young Researchers 2025 (IWAEM'25), #O024 (Higashi Osaka, November 29-30, 2025).
 7. Yoneyama, S., Combined Experimental-numerical Stress Analysis Based on the Principle of Superposition, International Symposium on Experimental Mechanics (SEM2025), (Taichung, October 26-30, 2028).
 8. Yoneyama, S. and Iizuka, K., Evaluating Thermal Stresses from Measured In-plane Displacements Based on the Principle of Superposition, 19th International Conference on Advances in Experimental Mechanics, (London, September 2-4, 2025).
 9. Onozuka, K., Iizuka, K. and Yoneyama, S., Observation of Bending Fracture Behavior of CFRTP Laminates with Fiber Discontinuity Using DIC, 24th International Conference on Composite Materials, (Baltimore, August 4-8, 2025).
 10. Kudo, M., Iizuka, K. and Yoneyama, S., Identifying Semiconductor Wafer Warpage and Residual Stress by Surface Profile Measurement, JSEM International Conference on Experimental Mechanics, #24212 (Tokyo, July 21-25, 2025).
 11. Iizuka, K., Yamaguchi, Y. and Yoneyama, S., Evaluation of Deformation Behavior of 3D Printed Lattice Structures Using Digital Image Correlation, JSEM International Conference on Experimental Mechanics, #24213 (Tokyo, July 21-25, 2025).
 12. Iizuka, K. and Yoneyama, S., Effect of Surface Layer for Tensile Properties of 3D Printed CFRP, The 14th Canada-Japan Workshop on Composites, #20 (Hiroshima, June 11-13, 2025).
 13. Yoneyama, S., Iizuka, K. and Kudo, M., Residual Stress Evaluation in Silicon Wafer Based on the Principle of Superposition and Full-field Warpage Measurement, 2025 SEM Annual Conference and Exposition on Experimental and Applied Mechanics, #19461 (Milwaukee WI, June 2-5, 2025).
 14. 藤田紘太郎, 飯塚啓輔, 米山 聡, 牛島邦晴, 鎮西将太, データ駆動型手法による局所くびれ部の材料特性評価, 第55回応力・ひずみ測定と強度評価シンポジウム講演論文集, 15-20 (2025).
 15. 紀藤大地, 後藤 健, 中村俊哉, 飯塚啓輔, 米山 聡, 高温水蒸気環境下におけるアルミナ繊維の力学特性評価, 第55回応力・ひずみ測定と強度評価シンポジウム講演論文集, 25-28 (2025).

16. 渡辺一樹, 後藤 健, 中村俊哉, 飯塚啓輔, 米山 聡, 高温水蒸気環境下における Al₂O₃/Al₂O₃ 複合材料の力学特性評価, 第55回応力・ひずみ測定と強度評価シンポジウム講演論文集, 49–52 (2025).
17. 飯塚啓輔, 米山 聡, 3Dプリント連続繊維CFRPの引張特性に与える表面層の影響, 第16回日本複合材料会議, #1C-10 (2025).
18. 野口輝恭, 飯塚啓輔, 米山 聡, 3Dプリントハニカムの圧縮変形予測モデルの構築, 日本実験力学会講演論文集(2025年度年次講演会), No. 25, 83-84 (2025).
19. 蓬萊和也, 飯塚啓輔, 米山 聡, 3DプリントCFRPの引張特性に及ぼす造形条件の評価の検討, 日本実験力学会講演論文集(2025年度年次講演会), No. 25, 85-86 (2025).
20. 工藤三彰, 飯塚啓輔, 米山 聡, 半導体ウエハの表面形状測定による反りと残留応力の同定, 日本実験力学会講演論文集(2025年度年次講演会), No. 25, 97-98 (2025).
21. 渡辺 樹, 紀藤大地, 青木涼馬, 飯塚啓輔, 米山 聡, 中村俊哉, 後藤 健, 高温水蒸気環境下における Al₂O₃/Al₂O₃複合材料の強度劣化機構, 第50回複合材料シンポジウム講演要旨集, B113 (2025).

社会活動・委員活動

22. 模原市中小企業研究開発補助金 外部専門家
23. Experimental Mechanics, Associate Technical Editor
24. Strain, Editorial Board
25. Journal of Strain Analysis for Engineering Design, Editorial Board
26. International Journal of Fracture, Regional Editor
27. Mechanics of Time-dependent Materials, Editorial Board
28. JSEM International Conference on Experimental Mechanics, Chairperson
29. BSSM's International Conference on Advances in Experimental Mechanics, Scientific Committee
30. 日本非破壊検査協会 編集運営委員 論文審査委員
31. 日本実験力学会 理事
32. 製品安全協会 専門部会委員長

栗原 陽介

所属：青山学院大学理工学部・教授

経歴等：http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_7/

研究成果の概要

2025 年度は、無拘束・非侵襲な生体情報計測に基づく医療・介護支援技術の研究開発に取り組んだ。まず、慢性閉塞性肺疾患（COPD）の在宅環境における診断支援を目的として、安静呼吸時に生じる胸部圧力変動を圧力センサで計測し、胸郭運動モデルに基づく特徴量と回帰分析を用いて最大吸気圧および最大呼気圧を推定する手法を構築した。その結果、スパイロメータによる実測値と比較して推定精度の向上が確認された。また、高齢者介護における排泄支援を目的として、膀胱壁の伸展特性と生理学的制御機構に基づく畜尿量推移モデルを構築し、超音波計測データとの比較により妥当性を検証した。提案モデルは従来モデルに比べて実測データへの追従性が高く、排尿予測への有用性が示された。

原著論文

1. T. Yamakawa, Y. Kurihara, K. Kobayashi and K. Watanabe, "Unified Framework for Evaluating Numerical Integration Methods Through Characteristic Root Distortion in Linear Ordinary Differential Equations," IEEE Access, vol. 13, pp.146973-146982 (Aug. 2025)
2. Y. Kurihara, K. Kobayashi, K. Watanabe, "Fan Pressurization Method to Measure House Leakage Area Using Built-in Exhaust Fans and Window Openings as Reference Areas," IEEE Sensors Journal, vol.25, no.15, pp.29880-29889 (Aug. 2025)
3. T. Yamakawa, Y. Kurihara, K. Kobayashi and K. Watanabe, "Numerical Integration Error in Linear Ordinary Differential Equations—Characteristic Root Distortion by Integration," IEEE Access, vol. 13, pp. 66188-66196, (Apr. 2025)

国際会議(査読あり)

4. T. Kuwahara, Y. Kurihara, "Accuracy Validation of Non-Contact and Non-Destructive Sugar-Acid Ratio Estimation in Fruit Using Gaussian Function Fitting from Hyperspectral Images: A Case Study on Mandarin Oranges", ICISIP2025, Sept.2025.
5. Y. Ashikawa, Y. Kurihara, "Detecting Deceptive Responses Due to Psychological Bias by the Probability Density Function of EEG Content Rate Dynamics During NEO-

FFI Answering,” 2025 Asia Pacific Signal and Information Processing Association Annual Summit and Conference (APSIPA ASC), 2025, October.

国内発表

6. 堀池哲平, 栗原陽介, “就寝時に発生する搔破行動の無拘束計測および搔破音解析に基づく搔破回数・搔破時間の推定,”第64回日本生体医工学会大会, vol.63, pp.241_1, 2025年6月
7. 石原滉大, 芦川友仁, 栗原陽介, “性格特性評価における作為回答判別のための脳波スペクトル尺度変換関数群の5因子に対する汎化性能評価,”第24回情報科学技術フォーラム, pp.445-446, 2025年9月
8. 桑原拓大, 栗原陽介, “ハイパースペクトルカメラによる高次元分光画像を用いた青果物の非破壊糖酸比推定の精度検証:みかんを対象として,”第24回情報科学技術フォーラム, pp.143-144, 2025年9月
9. 堀池哲平, 栗原陽介, “マイクロホンアレイによる搔破音の無拘束多点観測およびMUSIC法を用いた就寝中における搔破部位の判別,”第24回情報科学技術フォーラム, pp.573-574, 2025年9月
10. 河野 友樹, 栗原 陽介, “安静時呼吸運動の準周期性に基づく最大吸気圧/最大呼気圧の無拘束推定法の提案,”第24回情報科学技術フォーラム, pp.577-578, 2025年9月
11. 鈴木優人, 栗原陽介, “脳血流量・心拍変動によるマルチモーダルコミュニケーションネットワークを用いた共同作業における効率性指標推定手法の提案”, 第24回情報科学技術フォーラム, pp.373-374, 2025年9月
12. 阿部 拓馬, 栗原 陽介, “圧縮空気のボルテックスチューブによる温度分離を利用したマイクロエナジーハーベスティング手法の提案ーペルチェ素子表面への効率的な熱伝達手法の検討ー,”日本設備管理学会2025年度 秋季大会研究発表大会, 2025年11月
13. 石原滉大,栗原陽介, “性格特性5因子及び脳部位に対する汎用型尺度変換関数の構築によるNEO-FFI回答時における作為回答判別,”HCGシンポジウム2025, 2025年, 12月
14. 鈴木優人, 栗原陽介, “脳血流量の分数階微分およびグレンジャー因果解析を用いた共同作業時の精神的疲労推定,”HCGシンポジウム2025, 2025年, 12月
15. 芦川友仁, 栗原陽介, “Likert 尺度とVAS による心理バイアス検出における有効性の比較ーNEO-FFI における社会的望ましきバイアスを対象とした検証ー,” HCGシンポジウム2025, 2025, December.
16. 広田 卓, 栗原 陽介, “排尿予測システムの開発に向けた膀胱壁伸展特性に基づく蓄

- 尿量推移モデルの構築, ”第34回高齢社会デザイン合同研究発表会, 2025年12月
17. 山川 拓哉, 小林 一行, 栗原 陽介, 渡邊 嘉二郎, “LiDAR技術における反射強度の減衰と材質の影響に関する基礎実験, ”第88回知的システム研究会(SIC2025-2), 2025年12月

受賞

18. 栗原陽介, 2025 年度青山学院学術賞

石井 慶子

所属：中央大学工学部・准教授

経歴等：<https://sites.google.com/view/keiko-ishii/resume?authuser=0>

研究成果の概要

自励振動ヒートパイプ内部流動について、流れ場と温度の同時計測を行った。磁性流体マイクロカプセルについて、強制流動場におけるクラスター形成様相を特定するため、可視化実験を行った。2色粒子を用いた、温度速度計測法の開発を進めた。

著書

1. 美しく生きるための美容福祉: ジェロントロジー・美齢学 (担当:共著, 範囲:5章)中央法規出版 2025年3月7日 (ISBN: 4824301890)

寄稿

2. "科学の力で社会は変わる"と信じて (インタビュー記事) 草のみどり (中央大学情報誌) 351 24-25 2025年9月
3. 恋愛と結婚の難しさについて 石井慶子Journal of the JAPAN SKEPTICS 32 2025年2月

シンポジウム・講演・学会発表

4. 伊藤 文臣, 石井 慶子, Takagi Daisuke, 中村太郎, 複数鞭毛をラッピングしたバクテリア型ロボットの開発, 第26回計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会 2025年12月11日
5. 原沢 みなみ, 伊藤 文臣, 石井 慶子, 加賀谷 勝史, 中村 太郎, テッポウエビのキャビテーション生成原理に基づく衝撃発生機構の開発, 第26回計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会 2025年12月11日
6. Kanji Suzuki, Keiko Ishii, Filling ratio of pulsating heat pipe influence on internal flow
7. The 11th JSME-KSME Thermal and Fluids Engineering Conference (J-K TFEC11) 2025年10月24日
8. M.Tanaka, K.Ishii, K.Yokota, Flow simulation and analysis around a baseball using computational fluid dynamics, The 11th JSME-KSME Thermal and Fluids Engineering Conference (J-K TFEC11) 2025年10月24日

9. Kensei Yamaguchi, Keiko Ishii, Development of simultaneous measurement of temperature and velocity fields using two-color microparticle, 35th International Symposium on Transport Phenomena. 2025年9月23日
10. Takuma Matsunaga, Keiko Ishii, Study on Thermal Transport Characteristics of Self-Excited Cooling Device with Temperature-Sensitive Magnetic Microcapsule Dispersion
11. 35th International Symposium on Transport Phenomena 2025年9月22日
12. 原沢みなみ, 伊藤文臣, 石井 慶子, 加賀谷勝史, 中村太郎, テッポウエビのキャビテーションビーム生成 原理に基づく衝撃発生機構の開発—筋力変化 によるキャビテーション発生の有無に関する 予備的検証— エアロ・アクアバイオメカニズム学会 第 50 回定例講演会 2025年9月1日
13. 伊藤文臣, 石井慶子, Daisuke Takagi, 中村太郎, ラッピング鞭毛型遊泳ロボットの 内視鏡応用 に向けた試作設計と配管内における駆動実験, エアロ・アクアバイオメカニズム学会 第 50 回定例講演会 2025年9月1日
14. M. Harasawa, F. Ito, K. Ishii, K. Kagaya, T. Nakamura, The musculoskeletal system of the Pistol shrimp and its fluid motion as a normative model Prototype and initial evaluation of cavitation beam generation mechanism, The IEEE International Conference on Advanced Robotics and Mechatronics (ICARM) 2025年8月3日
15. 伊藤文臣, 石井慶子, Daisuke Takagi, 中村太郎, 高粘性流体内遊泳のためのラッピング鞭毛形状を有したバクテリア型ロボットの駆動試験, ロボティクス・メカトロニクス 講演会 2025 in Yamagata 2025年6月6日
16. 原沢みなみ, 加賀谷勝史, 石井慶子, 伊藤文臣, 中村太郎, テッポウエビの筋骨格系とその流体運動を規範としたキャビテーションビーム生成機構の試作と初期評価, ロボティクス・メカトロニクス 講演会 2025 in Yamagata
17. 山口研成, 石井慶子, 二色マイクロ粒子による温度場計測法の開発, 第62回日本伝熱シンポジウム 2025年5月16日
18. 松永拓真, 石井慶子, 感温磁性マイクロカプセル分散液を用いた 自励駆動冷却デバイスの熱輸送特性に関する研究, 第62回日本伝熱シンポジウム 2025年5月15日

社会活動

19. 石井慶子, マイクロミキサー・磁性流体冷却デバイス・アルミ平板自励振動ヒートパイプ, 宇宙科学シンポジウム 2025年8月
20. 石井慶子, 自律駆動・蓄熱・可視化を統合した多機能熱輸送流体の創成, 【JST主催】大学見本市 イノベーション・ジャパン 2025年8月
21. 水で動くロボットアーム を作ろう, 関東支部・東京ブロック 2025年度 関東支部

東京ブロック「機械の日」イベント 2025年8月9日 - 2025年8月9日

指導学生受賞

22. 鈴木幹二, 日本機械学 熱工学部門 部門一般表彰 若手講演表彰

竹下 啓

所属：東海大学医学部・教授

経歴等：http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_5/

研究成果の概要

高齢者も対象となる在宅や施設における医療・ケアは、医師、看護師、薬剤師、介護支援専門員、療法士、介護士等の多施設多職種協働によって提供される。しかしながら、医療・ケアチーム、患者（サービス利用者）本人、家族等の間において、適切な合意形成が困難なことがある。そこで、今年度も在宅や施設における倫理的問題を同定し、解決を支援するための研究活動を継続した。また、遺伝医学に関する研究も行なった。

学術論文(英文)

1. Yamazaki Suzuki M, Ohnuki Y, Mori T, Unzaki A, Takeshita K. Patient Perceptions of Sensitive Genetic and Other Medical Information: Findings from a Cancer Survivors Survey in Japan. *JMA J.* 2026;9(1):141-149. doi: 10.31662/jmaj.2025-0318. <https://www.jmaj.jp/detail.php?id=10.31662%2Fjmaj.2025-0318>
2. Unzaki A, Ohnuki Y, Suzuki MY, Mori T, Takeshita K. Use of assent documents and supportive pediatric care practices: results from a national survey in Japan. *BMC Med Ethics.* 2026;27(1):23. doi: 10.1186/s12910-025-01375-2. <https://link.springer.com/article/10.1186/s12910-025-01375-2>
3. Tsuda B, Ohnuki Y, Tomomatsu H, Ito M, Takahashi Y, Suzuki M, Unzaki A, Mori T, Tokuhara M, Takeshita K. Implications of Palliative Care Screening in Outpatient Comprehensive Cancer Genome Profiling Tests. *JMA J.* 2025;8(4):1377-1383. doi: 10.31662/jmaj.2025-0137. <https://www.jmaj.jp/detail.php?id=10.31662%2Fjmaj.2025-0137>
4. Oki M, Nagao N, Dozono T, Kamiya K, Miura Y, Takeshita K. COVID-19 Vaccination Decision-Making for Residents With Dementia in Japanese Long-Term Care Facilities: A National Cross-Sectional Survey *J Genl Fam Med.* 2026;27(1): e70093. doi/10.1002/jgf2.70093. <https://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1002/jgf2.70093>

学術論文(邦文)

5. 大貫 優子, 鈴木 みづほ, 運崎 愛, 森 朋有, 竹下 啓. 神経難病の意思決定支援に関する文献的検討. *臨床倫理.* 2025;13:64-77.

https://jglobal.jst.go.jp/detail?JGLOBAL_ID=202502226722612591

- 野口 善令, 松村 優子, 三浦 由佳里, 板井 孝一郎, 竹下 啓, 恋水 諄源. 倫理コンサルテーション活動の困難性についてのアンケート調査報告. 臨床倫理. 2025;13:47-63.

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jce/13/0/13_47/_article/-char/ja/

総説論文(邦文)

- 竹下 啓. 【医療安全と事故・紛争対応への実際】医療安全 臨床倫理コンサルテーション. 小児外科. 2025;57(10):1045-1049.
- 高野 朋子, 竹下 啓. 再生医療等の安全性の確保等に関する法律及び臨床研究法の一部を改正する法律(令和6年6月14日法律51号). 医事法学. 2025;40:216-222
- 竹下 啓. ケースから学ぶ臨床倫理推論 終末期の患者への対応 緩和的抜管,人工呼吸器の中止. 医学のあゆみ. 2025;294(11):1082-1086.
- 竹下 啓. 明日からの診療に活かす臨床倫理. 日本整形外科学会雑誌. 2025;99(5):312-318.
- 金城 謙太 長尾 式子, 竹下 啓.【内科医のための成人移行支援-神経系疾患を中心として】病院・地域の実情に応じた取り組み 地域での臨床倫理. 内科. 2025;135(5):1152-1155.

著書・分担執筆

- 森屋宏美、竹下 啓. (担当:分担執筆, 範囲:遺伝カウンセリンの潜在的クライアントを紹介に導くための取り組み) 実践に学ぶ遺伝カウンセリングのコツ-新たな「気づき」「学び」に繋がる遺伝カウンセリング実践集 (遺伝子医学別冊/Genetic Counseling) . pp140-145メディカルドゥ 2026年2月10日 (ISBN: 4909508368)
- 山本 圭一郎, 徳原 真, 中山 照雄, 堂囿 俊彦, 竹下 啓, 高島 響子 (共編著者) . 対話から学ぶ臨床倫理コンサルテーション: 医療の現場で答えが出ない「もやもや」に出会ったら. 医学書院 2025年9月1日 (ISBN: 4260057383)
- 竹下 啓. (担当:分担執筆, 範囲:第4章第7節「人生の最終段階と美容」) 美しく生きるための美容福祉: ジェロントロジー・美齢学 中央法規出版 2025年3月7日 (ISBN: 4824301890)

シンポジウム・講演

- 竹下 啓. 共通講習(感染):感染症とスティグマ 第35回日本頭頸部外科学会学術講演会 2026年2月6日
- 竹下 啓. 教育講演2: ACPをどう臨床に活かすか 第46回日本臨床薬理学会学術総

会 2025年12月5日

17. 竹下 啓, 武 ユカリ, 吉江 暢洋, 堂囿 俊彦. 公募シンポジウム：医療・介護の臨床現場の顧客ハラスメントのグレーゾーン ～倫理・法の視点から対策について考える～ 第37回日本生命倫理学会年次大会 2025年11月22日
18. 竹下 啓, 則末泰博, 荻野美恵子, 堂囿俊彦, 神谷恵子. 公募ワークショップ：終末期抜管の臨床倫理 日本生命倫理学会第37回年次大会 2025年11月22日
19. 竹下 啓. 医療倫理の視点から考える患者安全 第40回日本整形外科学会研修指導者講習会 2025年11月
20. 竹下 啓. PALセミナー3：病院における倫理コンサルテーションの役割 第63回日本癌治療学会学術集会 2025年10月17日
21. Kei Takeshita. Special Lecture: Clinical Ethics of Withdrawing Life-Sustaining Treatment in Japan – Practical Guidance for Clinical Perfusionists and ECMO Specialists – The 4th Meeting of Federation of Asian Perfusion Society 2025年10月12日 Federation of Asian Perfusion Society
22. 竹下 啓. 教育講演11：結核とスティグマ 第100回日本結核・非結核性抗酸菌症学会学術講演会 2025年6月7日
23. 竹下 啓. 必修講習会講演：DNARの臨床倫理 日本超音波医学会 第98回学術集会 2025年6月1日

社会活動・委員活動

24. 北里大学白金治験審査委員会副委員長
25. 北里大学医学部医の倫理委員会委員
26. 慶應義塾大学医学部倫理委員会委員
27. 慶應義塾臨床研究審査委員会委員
28. 慶應義塾大学病院医師主導治験審査委員会委員
29. 公益財団法人生存科学研究所専務理事
30. 一般財団法人公正研究推進協会評議員
31. 日本臨床倫理学会理事
32. 日本生命倫理学会副代表理事
33. 生命・医療倫理研究会副会長
34. 「臨床倫理」編集委員
35. 「CBEL Report」編集委員
36. 「生命倫理」編集委員会委員長
37. 「生存科学」編集委員

佐野 智子

所属：国際医療福祉大学赤坂心理・医療福祉マネジメント学部・教授

経歴等：http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_9/

研究成果の概要

難聴や加齢性難聴の人々へのコミュニティによるサポートに関して実践的研究を行った。オンラインを使用しての難聴当事者のピアサポートグループ「きこえカフェ」の実践と機能の検討を行い、また、難聴当事者のワークショップや当事者研究会を実施した（科研基盤研究（C）課題番号23K02978）。その他に、医療系学生を対象とした難聴高齢者への対応の質向上のための教材を開発している（科研基盤研究（C）課題番号23K10216）。共同研究者である長田久雄教授主宰の「難聴研究会」に継続的に参加し、難聴に対する人々の認知や難聴高齢者の心理、および難聴者への支援について、検討・研究を行っている。

論文

1. 佐野智子・小川智子・森田恵子・長田久雄（2025） 医療系専門職養成校における加齢性難聴に関する教育の現状—国家試験出題基準と教科書の記載を手がかりとして— 城西国際大学紀要, 第33巻第3号, 83-97.

シンポジウム・学会発表

2. 佐野智子・勝谷紀子・松尾朗子・森田恵子・長田久雄（2025）自身および周囲の難聴の有無が難聴に関する知識や対処行動に及ぼす影響, 日本心理学会第89回大会, 仙台.
3. 勝谷紀子・佐野智子・松尾朗子（2025）不確実性は難聴者のコミュニケーションの認知に影響するか—健聴者と難聴者を対象としたオンライン実験—, 日本心理学会第89回大会, 仙台.
4. 佐野智子（2025）「老化と老化に関連した障害」『障害という経験を理解する』から考える—心理学における障害研究の現在地と可能性, 日本心理学会第89回大会シンポジウム 話題提供
5. 勝谷紀子・佐野智子（2025）難聴に対する偏見の低減をねらいとしたワークショップの実践, 日本社会心理学会第66回大会, 東京.
6. 宮澤純子・佐野智子（2025）医療系学生の実習における難聴高齢者への対応—スコーピングレビュー, 第90回日本健康学会総会, 札幌.
7. 杉浦彩子・勝谷紀子・佐野智子（2025）難聴当事者による聞こえ・聞き取り困難者

- 向けの交流会共同開催の経験，第70回日本聴覚医学会総会学術講演会，成田.
8. 勝谷紀子・麻野美和・江連紀子・佐野智子・高宮明子・渡邊欽忠（2025）聞こえの多様性の可視化を目指した当事者研究の実践，日本質的心理学会第22回大会，広島 .
 9. 佐野智子・勝谷紀子（2025）耳の健康教育への絵本利用の可能性－日本語と英語の絵本比較分析－，第84回日本公衆衛生学会総会，静岡.

社会活動

10. 勝谷紀子・佐野智子 難聴当事者のピアサポートグループ「きこえカフェ」（主催：勝谷紀子）の実施（2025/4/27, 5/25, 6/22, 7/20, 8/24, 9/27, 10/26, 11/30, 12/21, 2026/1/25, 2/22） .
11. 勝谷紀子・佐野智子 聞こえのワークショップ－自分の聞こえ方を表現してみよう，（2025/9/14実施） .
12. 当事者研究会参加（2025/4/28,5/25,6/15,9/11, 2026/1/24） .
13. 「難聴研究会」実施（2025/6/24, 8/18,2026/2/9） .

その他

14. 佐野智子（2025）TOPICS 2難聴予防のための美容ケアの可能性，山野学園（編）『美しく生きるための美容福祉－ジェロントロジー・美齡学』，中央法規出版.

長田 久雄

所属：桜美林大学・名誉教授・大学院客員教授

経歴等：http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_10/

研究成果の概要

本研究所の佐野智子客員研究員とともに、加齢性難聴に関する研究を継続して行っている。加齢性難聴は認知症やうつ病とも関連していると考えられており、その対応・支援は重要である。昨年度に引き続き、医療系学生を対象とした難聴高齢者への対応の質向上のための教材を開発に取り組んだ（科研基盤研究（C）課題番号23K10216）。また、定期的に難聴研究会を開催している。

学術論文

1. 佐野智子・小川智子・森田恵子・長田久雄（2025） 医療系専門職養成校における加齢性難聴に関する教育の現状—国家試験出題基準と教科書の記載を手がかりとして— 城西国際大学紀要, 第33巻第3号, 83-97.
2. 小野真由子・長田久雄, 高齢者用感謝尺度の作成と妥当性および信頼性の検討. 老年社会科学46(4), 327-337, 2025.
3. Therese Doan, Sumiyo Brennan, Jongmi Seo, Hisao Osada, Michiyo Bando. Cross-Cultural Ageism: Perspectives from Nursing Students in the USA and Japan. J. Ageing Longev.5(1), 1-17, 2025.

著書

4. 日本老年臨床心理学会企画（共編集・分担執筆担当） 老年臨床心理学ハンドブック 福村出版 2025

シンポジウム・講演・学会発表

5. 佐野智子・勝谷紀子・松尾朗子・森田恵子・長田久雄（2025）自身および周囲の難聴の有無が難聴に関する知識や対処行動に及ぼす影響, 日本心理学会第89回大会, 仙台.
6. Ikeda T. Takahashi R. Omama S. Osada Y. Osada H. Parental Perspectives on the Effects and Challenges of Theater Viewing for Sick or Disabled Children. 39Th Annual Conference of the European Health Psychology Society. 2025.8.29. Groningen.
7. 森下久美・長田久雄：「日本における認知症ケアの現状」. 人口高齢化における認知

症ケア・サービスシステムの構築に関する国際会議（山東女子学院）.2025.12.13.オンライン

委員活動

8. 認知症介護研究・研修仙台センター研究倫理委員会委員長
9. 財団法人認知症予防財団理事
10. 町田市介護保険事業計画・高齢者福祉計画審議会会長
11. 神奈川県介護予防事業市町村支援委員会専門部会委員

平井 誠

所属：神奈川大学人間科学部・教授

経歴等：https://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_20/

研究成果の概要

人口高齢化および高齢者の居住地移動に関する情報収集および基礎的分析を継続した。本務校および所属学会の雑務が多忙を極め、研究面では低調な内容にとどまった。

著書・分担執筆

1. 平井 誠 (2025) 「10 高齢者と高齢社会」 pp.99-108. (所収 二村太郎・矢ヶ崎典隆編『シリーズ<世界を知るための地誌学>アメリカ』朝倉書店.)

社会活動・委員活動

2. 日本地理学会理事 (総務)
3. 日本地理学会百周年記念事業実行委員会委員
4. 地域地理科学会代議員
5. 横浜市神奈川区「わが町神奈川とっておき実行委員会」委員

草野 邦明

所属：群馬大学情報学部・助教

経歴等：https://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_22/

研究成果の概要

現在、ジェロントロジー研究所において、「群馬県中西部におけるフードデザートエリアの時系列分析」の課題に取り組んでおり、本年度は、2020年時点の群馬県前橋市のフードデザートエリアの抽出を行った。また、同研究所における研究課題のほか、継続課題として、「国勢調査小地域統計データの利活用に関する研究・技術開発の支援」（研究助成）、「群馬県中西部地域におけるジオデモグラフィックスの構築とオープンデータ化」（研究助成）、新規課題として、「GISを用いた既存店舗の商圈分析」（受託研究）、「新規店舗候補地の立地評価とモデル構築」（受託研究）、「小地域別将来人口推計ウェブシステムの構築を通じた高齢化と人口減少の国際比較研究」（科学研究費助成事業）（分担）、「高度外国人材の地方選択メカニズムの解明と流入・定着促進整備に関する学際的研究」（科学研究費助成事業）（分担）、の研究課題に取り組み、論文3編、学会発表4件の成果を挙げた。

学術論文

1. 草野邦明, 2026. 東京都区部の町丁目における内部の人口分布と特徴. 人口問題研究, 82 (2) : (印刷中).
2. 草野 邦明, 2025. 小地域統計データにおける 4 つの空間スケールを用いた人口分布の比較. ESTRELA, 381 : 2-9.
3. 草野 邦明・奥貫 圭一, 2025. 複数の空間的スケールの地域メッシュを用いた人口増減の比較. えりあぐんま, 31 : 17-27.

シンポジウム・講演・学会発表

4. 草野邦明, 都市地域における町丁目内部の人口分布の分析. 日本人口学会関西地域部会・2025年度研究会.
5. 草野邦明・塚本章宏・原澤亮太・岩崎俊亮, GISカードを活用した授業プログラムの教育効果検証：群馬県立沼田高等学校を事例に. 群馬地理学会第33回大会.
6. 草野邦明, 複数の空間的スケールを用いた人口増減の比較. 2025年度日本人口学会第1回東日本地域部会.
7. 草野邦明・片山佳代子・奥貫圭一, GISを援用した全国がん登録データの小地域別分析. 日本人口学会第9回「地方行政のためのGISチュートリアルセミナー：地域医

療とGIS」.

社会活動・委員活動

8. 国立社会保障・人口問題研究所,「人新世における人口動態と環境の新たな相互作用メカニズムに関する総合的研究（人口と環境）」外部委員
9. 国立社会保障・人口問題研究所,「将来人口・世帯推計に関する調査研究ならびにシステム開発事業（地域別将来人口推計）」外部委員
10. 東京都統計グラフコンクール審査委員
11. 地理情報システム学会代議員・教育委員会 副委員長
12. 群馬地理学会編集委員

井上 希

所属：国立社会保障・人口問題研究所・室長

経歴等：http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_12/

研究成果の概要

これまでの活動に引き続き、2025年度はジェロントロジー研究所のWEBサイト等の管理や老年学に関連する研究発表を実施しました。オンライン会議システムの普及により時間・場所を問わず学術大会が開催できるようになりましたが、近年は対面のみで大会を開催する学会がまた増えている印象を受けます。円安の影響もあり、国際学会への参加は多額の費用が掛かるため、対面のみでの開催となると、今後参加できる研究大会が限られてくるかもしれません。研究について、これまでの研究にくわえ、本年度は米国に焦点を当てた老年学の研究を実施しております。具体的には、米国における単身高齢者の地理的偏在について確認し、さらに高齢者施設へのアクセシビリティについても検証しております。本研究に係る成果は来年度の学会報告と論文投稿となりますが、米国の研究者と共同で研究を行っており、多くの研究成果を残すことができるよう今後も邁進して参ります。

学術論文・著書

1. 井上希・蓋若琰 (2026) 「気候変動による子どもの教育・学習環境への影響について」, 『ESTRELA』, 第384号. (2026年3月刊行予定)
2. 蓋若琰・佐々木織恵・井上希 「子どものウェルビーイングと気候変動に関する研究の展望」, 『ESTRELA』, 第384号. (2026年3月刊行予定)
3. 井上希 (2026) 「Energy Consumption and Aging Populations[書評]」 『人口問題研究』第81巻第1号. (2026年3月刊行予定)

シンポジウム・講演・学会発表

4. Nozomu Inoue and Kaoru Kakinuma (2025) “Does Having Pre-existing Medical Conditions Elevate the Risk of Heatstroke Mortality? Evidence from Japan (2013–2022),” Population Association of America 2025 Annual Meeting.
5. 井上希(2025) 「地域人口の構造」, 立教大学社会学部講義「社会人口学」
6. 井上希(2025) 「人口高齢化と年金問題」, 立教大学社会学部講義「社会人口学」
7. Kaoru Kakinuma and Nozomu Inoue (2025) “Climate Change and an Aging Society: The Rapid Increase of Heatstroke Deaths in Japan (1972-2022) ,” International Population Conference (IPC2025).

8. Nozomu Inoue and Kaoru Kakinuma (2025) “Who Is at Risk of Heatstroke Mortality?” Southern Demographic Association 2025 Annual Meeting.

社会活動・委員活動

9. ミネソタ大学ツインシテーズ校 客員研究員
10. 青山学院大学 総合研究所 客員研究員

朝倉 匠子

所属：青山学院大学ジェロントロジー研究所・客員研究員

経歴等：http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_13/

研究成果の概要

女性の晩年のクオリティーオブライフに最も影響する「骨密度と骨質」。閉経後女性は女性ホルモンの急減（男性の持っている女性ホルモンの半分、もしくは1/3になる）と共に骨粗鬆症のリスクが急増します。エイジングスペシャリストとして活動する身としては自身を実験台にその対策を早くから講じています。以前は骨吸収を抑えるプラリアを半年に一度注射していましたが、近年骨の強さは骨密度だけでなく、骨質も重要だとされる点を踏まえ、専門医に骨質のチェックを依頼し、骨粗鬆症予防薬としてSERM(選択的エストロゲン受容体調整薬)のビビアンをここ5年間飲んでいきます。(硬いだけではポーセリンのようにポッキと折れてしまうので、骨のしなやかさ、柔軟性が重要)。そしてその効果を毎年DEXA法（2種類のX線で頸椎と大腿骨）で調べ、今の所かなり良い数字になっています。

- ・バランスとバラエティーを心がける食事
- ・運動も含め日頃から体をよく動かす
- ・閉経後に骨密度を調べ、適宜骨粗鬆症予防の薬をスタートさせる
- ・定期的にチェックする

上の4つは特に女性の晩年のクオリティーオブライフには欠かせないと思います。以上をSNSで発信して大きな反響を得た。

講演

1. 2026年1月8日 銀座交詢社クラブ講演会「若々しく歳を重ねる極意」

社会活動

2. 毎年6月に行う「母子施設」のお母さんを癒すハンドマッサージの実践
3. 毎年年末に行う「母子施設」に送る年末パッケージを70個作成

その他

4. 2025年11月9日 The Fujiyama Sisters ショーを銀座ケントスで開催
5. 2026年8月にLP発売が決まり、そのライブレコーディングを行う

大西 典子

所属：山野美容芸術短期大学・特任教授

経歴等：https://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_15/

研究成果の概要

超高齢社会では、がんや認知症などにより社会とのつながりが弱まりやすい人々に対し、「ケアとしての美容」が重要な支援手段となる。これを社会に実装するため、多職種が共通理解を持てるよう人材育成テキストの編集や資格制度の見直しを進め、美容実践者が専門性を発揮できる基盤づくりにも取り組んだ。今後は、これらの成果を実装研究へ発展させるため、ジェロントロジー研究所と連携し、科学的根拠に基づく評価やモデル化を進めながら、持続可能な社会実装を目指していく。

分担執筆・寄稿シンポジウム・講演・学会発表

1. 大西典子分担執筆,中央法規介護福祉士受験対策研究会／編集 介護福祉士国家試験過去問題解2026中央法規出版 2025年5月
2. 大西典子「美容福祉・美齢学の人材育成システムの新展開について」日本美容福祉学会誌 VOL.23 NOV.2024 pp6-10 2025.1.1
3. 駒形恵子, 大西典子, 大野淑子, 鈴木育宏, 「がんサバイバーの社会参加を支援する地域美容事業者向け教育プログラムの開発」日本美容福祉学会誌 VOL.23 NOV.2024 pp33-38 2025.1.1
4. 大西典子分担執筆, 学校法人山野学苑編集「美しく生きるための美容福祉—ジェロントロジー・美齢学」中央法規出版 編集委員 第1章2節,第2章1節,第4章1節・1第5節1, 2・第6節1, 5,topics 8 2025.3.10
5. Noriko Onishi, The Role of Aesthetics in Elderly Care, 6th Asia-Pacific Advanced Nursing Practice, Nursing Education and Leadership Conclave, Singapore June 19-20, 2025
6. 大西典子「がんサバイバーのためのアピアランスケア事業」全国介護理美容福祉協会NEWSLETTER第16号2-3, 2025.10
7. 大西典子「美容福祉をブランディングするためには」全国介護理美容福祉協会NEWSLETTER第16号4-5, 2025.10
8. 大西典子, 駒形 恵子, 渋谷 弘子「地域連携によるアピアランスケアの実装可能性—八王子市における医療・美容事業者の協同モデル—」日本美容福祉学会第24回学術集会 2025.11
9. 大西典子、真島唱良々、進藤葵、市村安珠、栗本佳典、永松俊哉 「見た目に対する

職場の理解と受け入れー派手な髪色、ネイル、ピアス、タトゥーについてー」日本美容福祉学会第24回学術集会 2025.11

社会活動

10. 社会福祉法人多摩養育園 第三者委員苦情解決訪問 (2025.3.19) (2025.11.14)
11. 社会福祉法人多摩養育園 第三者委員苦情解決運営員会副会長 (2025.11.25)
12. 八王子市がん予防対策推進イベント アピアランスケア相談協力 八王子市保健所 (2026.2.11)

委員活動・学会活動

13. 一般社団法人日本美容福祉学会理事
14. 一般社団法人日本美容福祉学会第24回学術集会実行委員長
15. NPO全国介護美容福祉協会監事
16. 一般社団法人がん治療学会会員
17. 一般社団法人がんサポーターズケア学会会員
18. 日本認知症学会会員
19. 日本早期認知症学会会員

及川 麻衣子

所属：山野美容芸術短期大学美容総合学科・准教授

経歴等：https://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_17/

研究成果の概要

美齢学・美容福祉と教育を軸に、AI活用・多職種連携・地域交流を通じた実践研究を行った。ICTを活用した美容カルタ制作では、大学生と高齢者の協働により固定観念の緩和や相互理解の深化が確認された。本成果は国際学会でも発表し、伝統文化とテクノロジーを融合した教育実践として評価を得た。化粧品療法講義では、リハビリテーション学生の美容への関心向上と多職種連携意識の高まりが示された。さらに、デイサービスや重度心身障がい者施設での美容ケア実践から、情緒的安定や自己肯定感向上など心理社会的効果が示唆された。加えて、10代向けイベントや子ども食堂での地域活動を通じ、美容教育が感性育成と社会参加を支える可能性を明らかにした。

学術論文

1. 富田知子・及川麻衣子・木村康一・永松俊哉（2025）山野美容芸術短期大学 授業「美道論」受講生の「精神美」理解についての考察～精神美についてのアンケートを対象としたテキスト分析～,国際健康美学会総合的健康美学研究第12巻2025年12月:18-38.

講演・学会発表・講座

2. 調布市社会福祉事業団ちょうふだぞう「整容・身だしなみ講座」調布市社会福祉事業団ちょうふだぞう 2025年4月19日
3. 日本ケアメイク協会化粧品訓練士スキルアップ講座 オンライン 2025年6月21日
4. 八王子学園都市大学「いちよう塾」美齢講座⑥「エイジングヘアケア～美しい髪とヘアスタイルを保つためのヘアケア～」八王子市学園都市センター 2025年6月28日
5. 八王子市視覚障害者福祉協会「ブラインドメイク講座」八王子生涯学習センタークリエイトホール 2025年7月5日
6. 株式会社OSAJI × 日東電化工業株式会社 × 山野美容芸術短期大学「聴く美容メイクエデュケーションー10代への美容教育と感性育成の試みー」東京都世田谷区ADRIFT 2025年7月26日
7. 八王子市みなみ野子ども食堂 ネイルアート体験会 八王子市片桐学園学生会館 2025年8月20日

8. 八王子NPOフェスティバル Yamatan-Bell-Rose による地域活性プロジェクト活動
東京たま未来メッセ 2025年8月24日
9. NPO全国介護美容福祉協会第18回登録美容師の集い「美しく生きるための美容福祉ジェロントロジー・美齡学テキストの活用方法」山野美容専門学校 2025年8月26日
10. 三田薫、及川麻衣子 大学生と高齢者の異世代交流を促進するAI活用カルタプロジェクト 第41回日本教育情報学会大阪教育大学柏原キャンパス 2024年8月30日
11. 第17回多摩養育園福祉まつり2025 ハンドマッサージ 社会福祉法人多摩療育園養護老人ホーム檜の里 2025年11月9日
12. 及川 麻衣子、大石 華法、石井 文康 化粧品療法講義でのリハビリテーション学生の関心度についての検討 -多職 種連携教育を踏まえて- 第24回日本美容福祉学会 2025年11月15日
13. 及川 麻衣子、萩原 詩織、佐野 晴澄、鈴木 恵人 デイサービスにおけるハンドマッサージの効果検証-美容福祉の実践報告- 第24回日本美容福祉学会 2025年11月15日
14. 及川 麻衣子、佐野 晴澄、萩原 詩織、鈴木 恵人 重度心身障がい者施設における美容福祉ケアの実践報告 第24回日本美容福祉学会 2025年11月15日
15. 及川 麻衣子、山本 恵子、阿部 高広、佐々木 律希、竹田 瑞葉、松田 璃音、村越 侑希実、茂田 正和、糸井 あかり、後藤 勇也 「聴く美容」イベントにおけるメイクエデュケーションの実践報告-10代への美容教育と感性育成の試み- 第24回日本美容福祉学会 2025年11月15日
16. 及川 麻衣子、山本 恵子、山田 桜花、牛久保 麻衣、渡邊 向日葵、小池 結菜、石川 元樹、田中 隼也、野牧 宏治、大淵 くみ子 地域交流を通じた美容教育の実践報告-八王子みなみ野子ども食堂における課外活動を通して 第24回日本美容福祉学会 2025年11月15日
17. Kaoru Mita, Maiko Oikawa, Mika Shirao, Tradition Meets Tech: An AI-Enhanced Karuta Project for Intergenerational Stereotype Reduction The Asian Conference on Education (ACE2025) 都市センターホテル 2025年11月25日
18. 八王子市心身障害者福祉センター「やさしいビューティー教室～はじめてのヘアケア・ネイルケア～」(全2回) 八王子市心身障害者福祉センター 2026年3月7日、3月21日

社会活動・委員活動

19. JUHA JAPON FESTIVAL大会審査員 横浜港大さん橋国際旅客ターミナル大さん橋ホール 2025年11月18日

20. 「受刑者の出所前教育インプレッション指導」 立川拘置所 2025年5月19日、2026年2月9日
21. 全国介護美容福祉協会 理事
22. 日本美容福祉学会 理事
23. 日本化粧品医療学会 代議員

五十嵐 靖博

所属：山野美容芸術短期大学美容総合学科・教授

経歴等：https://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_16/

研究成果の概要

前年度までの研究を踏まえて、心理学をメタ学問的に検討する理論心理学と現行の心理学が抱える諸問題の解決に取り組む批判心理学の立場から、フォーコー派ディスコース分析の研究法論と批判心理学史のヒストリオグラフィーを採用して超高齢社会に生きる人の心的経験と社会や文化、政治経済などの外的諸条件の関係を探究した。前世紀末以来の新自由主義政策の影響に加えてコロナ禍後の物価高やウクライナ戦争、能登半島地震、ガザ紛争、米政権の外交政策の変更による諸影響、東アジアにおける国際政治の緊張、国内政治の流動化など急激に変わりゆく外的情勢と心理学の関心に留意し、「心理学的生産物」の役割や機能を検討して、その個人の主観性や行為の選択への作用と「心理学的事物」を日常生活の中で福祉の向上のために活用する可能性を考察し続けている。

シンポジウム・講演・学会発表

1. Igarashi, Y. (2025a). Possibilities of critical psychology and disability issues in Japan. The Symposium on Disability Issues and Critical Psychology in Japan co-organised by the Critical Psychological Colloquium of the Japanese Psychological Association and the Afro-Asian Critical Psychology Forum.
2. Igarashi, Y. (2025b). Discourse analysis of the Fukushima No.1 nuclear power plant accident: theoretical considerations 14 years after the disaster. The 3rd Global Conference on Psychology.
3. 五十嵐 靖博 (2025a). 批判心理学をどのように実践できるか. 第33回批判心理学セッション, 日本心理学会批判心理学研究会.
4. 五十嵐 靖博 (2025b). 「対テロ戦争」における「強化尋問技法」を用いた「過酷尋問」とアメリカ心理学: 批判心理学と理論心理学の立場から. 心理科学研究会秋期研究集会 (平和心理学分科会).
5. 五十嵐 靖博 (2025c). なぜ心理学で「平和」を主題化すべきか? 宇都宮大学公開講座 自らを問い直し続ける心理学: 批判心理学入門.

委員活動

6. Annual Review of Critical Psychology 編集委員 2006～

7. 公益社団法人日本心理学会 批判心理学研究会代表 2010～
8. International Society of Critical Health Psychology 運営委員 2011～2021
9. Awry: Journal of Critical Psychology (AJCP) 編集委員 2019～
10. Frontiers in Psychology 部門編集委員 2019～
11. 2020 Critical Psychology Conference in East Asia 組織委員会委員長
12. 2020 The Psychology of Global Crises Conference 実行委員

富田 知子

所属：山野美容芸術短期大学・客員教授

経歴等：https://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_23/

研究成果の概要

ジェロントロジーの視点から、高齢者の生活の質（QOL）向上を目指し、「美容と芸術」を介入手段とする実践研究を推進している。高齢者が主体的かつ積極的に参加できる地域事業の推進において、「美容と芸術」の要素を取り入れたアプローチは、自己肯定感の向上や社会的交流のきっかけとなり、高齢者の心理的・情緒的な安定にも寄与している。こうしたプログラムの開発には、「美容や芸術」とともに運動などの要素を取り入れた、多因子介入が望まれている。そこで、ジェロントロジー研究所の学際性を生かした実践的プログラムの開発をめざしたい。

学術論文・分担執筆・寄稿

1. 授業「美道論」受講学生の「精神美」理解についての考察～精神美についてのアンケートを対象としたテキスト分析～ 国際健康美学会 総合的健康美学研究 第12巻 pp.18-38
2. 授業「美道論」受講生に対する受講前および直後の「精神美」に関する理解についての考察 山野研究紀要Vol.34（予定）
3. 学生の課外活動をとおしての地域貢献 Yamatan-Bell-Rose 地域活性ローズプロジェクト山野研究紀要Vol.34（予定）
4. きれい体験でまち巡りvol.1（コラム）美齡学のすすめ

委員活動

5. 日本理容美容教育センター教員養成講座講師
6. 日本理容美容教育センター容文化論編纂委員

メディア出演

7. NHKチョコちゃんに叱られる「寝ぐせはなぜできる？」2025.5.9
https://xn--h9jua5ezakf0c3qner030b.com/25523.html#google_vignette

永松 俊哉

所属：山野美容芸術短期大学・教授

経歴等：https://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_19/

研究成果の概要

これまで運動を活用した健康増進に関する研究に取り組み、高齢者の健康づくりを狙いとして、日常生活の中で実施・継続可能な低強度の運動（レジスタンストレーニング・ストレッチング・ヨガ）および呼吸法の効用および不活動の弊害について検討してきた。今年度は日本人の座位行動特性およびスマホの学習効果と運動の関係について文献ワークを実施した。

著書

1. 永松俊哉. 心身の健康に関わるケア. 美しく生きるための美容福祉. 山野学苑編. 中央法規: 97-113. (2025)

講演

2. 美齢講座「美しい歩き方を学んで体力アップ」八王子市いちよう塾講演 (2025)
3. 羽村市スポーツリーダー養成講習会「スポーツとメンタルコントロール」羽村市教育委員会生涯学習部講演 (2025)

委員活動

4. 日本体力医学会 評議員
5. 日本美容福祉学会 理事
6. 公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団 倫理審査委員会 委員
7. 特定非営利法人羽村市スポーツ協会 理事
8. 公益社団法人日本エアロビック連盟 理事
9. 公益財団法人明治安田厚生事業団 理事
10. 公益財団法人明治安田厚生事業団 研究助成選考委員会 副委員長
11. 羽村市スポーツ推進審議会 会長
12. 公益社団法人日本エアロビック連盟 医科学委員会 委員

SAM

所属：ネクストジャパン株式会社 代表取締役
一般社団法人 ダレデモダンス 代表理事

経歴等：<https://trf.avexnet.or.jp/profile/detail.php?id=1000230>

研究成果の概要

老若男女すべての世代にダンスの楽しさを伝えようと、音楽に合わせて体を動かす「ダレデモダンス」の普及をしております。私の従兄弟の岩槻南病院理事長である丸山泰幸院長に監修して頂き、安全性と運動性を兼ね備えたダンスプログラムを制作しました。ご高齢の方でも安全に継続してダンスに取り組んでもらえるよう構成されています。実際に岩槻南病院においては、ある一定期間の心臓リハビリテーションの過程を終了した、心臓に疾患を持つご高齢の患者さんにご協力いただきながら運動強度に関する調査も行っており安全面に担保されています。医学的な効果として我々が期待していることは、有酸素運動としての効果をはじめ、ロコモティブシンドロームや認知症の予防効果が挙げられます。監修をする上で注意している点は、ダレデモ踊れるダンスであること。小さな子供からダンス未経験の高齢者まで、老若男女楽しめるダンスプログラムとして安全性と運動性を兼ね備えた内容であることを重要視し活動しています。

講演・講座

1. 第9回日本脳神経外科認知症学会 つくば国際会議場 2025年6月22日
2. 第31回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 2025年7月19日
3. 第25回CRCと臨床試験のあり方を考える会議2025 大宮ソニックシティ 2025年9月14日
4. 第25回メンズヘルス医学会 浜松町コンベンションホール 2025年10月11日
5. 第61回日本赤十字社医学会総会 大宮ソニックシティ 2025年10月16日
6. 脳心血管抗加齢研究会第21回学術会 梅田スカイビル 2025年12月5日

社会活動

7. 第48回沖縄市産業まつり～沖縄市市制施行50周年記念～ コザ運動公園 2025年1月25日
8. 長野県小布施町 ダレデモダンスワークショップ 北斎ホール 2025年2月11日
9. ウェルエイジングフェア2025in九州 電気ビル共創館 2025年2月22日
10. ナスミュージックアカデミー ダレデモダンスワークショップ 福山ニューキャッスルホテル 2025年3月30日

11. ゆめタウン福山 ダレデモダンスワークショップ 2025年6月29日
12. ENETECH SUMMER FESTIVAL 2025 in 東白川村 中川原水辺公園 2025年7月26日
13. スペシャルオリンピックス日本・愛知 ダレデモダンスワークショップ 東別院会館 2025年7月27日
14. フューチャーライフエクスペリエンス ダレデモダンスワークショップ 大阪関西万博 2025年8月1日
15. 楽天モバイル×佐賀リズムダンス研究会 ダレデモダンスワークショップ 佐賀アリーナ 2025年8月3日
16. 北区滝野川地区PTAスポーツフェスティバル ダレデモダンスワークショップ 滝野川体育館 2025年8月23日
17. 楽春フェスキズナ2025 二子玉川ライズギャラリー ダレデモダンスワークショップ 2025年9月15日
18. 東北少年院 ダレデモダンスワークショップ 2025年9月30日
19. 釧路市民健康づくり事業 釧路小学校 2025年10月2日
19. 介護予防交流フォーラム イオンモール岡山 2025年10月24日
20. ライオンズクラブ国際協会 ダレデモダンスワークショップ 衆議院議員会館 2025年11月19日
21. SKYふれあいフェスティバル2025 みやこめっせ 2025年11月29日
22. 岐阜県土岐市 ダレデモダンスワークショップ 2025年11月30日
23. 名古屋市熱田区 ダレデモダンスワークショップ 2025年12月7日
24. ダンスで健康！文京ダレデモダンス 元町ウェルネスパーク 2025年12月15日

メディア出演

25. NHK「ひるまえほっと」出演 2025年2月